



ゆづりは

堺市立図書館だより

第10巻 第2号 (通巻36号)
 発行日 平成27年9月10日
 編集・発行 堺市立中央図書館
 〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1
 電話 072(244)3811
 Fax 072(244)3321
 URL <http://www.lib-sakai.jp/>

堺の魅力を発信します！ 堺歴史文化市民講座

図書館は、「歴史文化のまち堺」の情報発信拠点として、堺の歴史文化の魅力をご紹介する「堺歴史文化市民講座」を、年間4回開催しています。この講座は、市民のみなさまに、堺が持つ歴史文化・芸術を体感していただき、堺に対する愛着や誇りを深めていただくことを目的としています。

平成27年度第2回堺歴史文化市民講座 『百舌鳥野の伝承よもやま話 ～八幡宮の歴史と祭礼より～』

平成27年度第2回堺歴史文化市民講座は、北区役所で「百舌鳥野の伝承よもやま話～八幡宮の歴史と祭礼より～」を開催します。1000年以上前から続く古墳群をふくめた百舌鳥野の伝承、6世紀中ごろに創建されたと伝えられる百舌鳥八幡宮の歴史、300年以上の歴史をもち、豊作の祈願と満月を祝うための月見祭（ふとん太鼓）とそれに伴う地域社会のつながりなどについて語っていただきます。

多くのご参加をお待ちしています。

日時：平成27年10月11日(日)

午後2時～4時

場所：北区役所1階 大会議室

講師：工藤俊之氏
くどうとしゆき
 (百舌鳥八幡宮名誉宮司)

定員：先着45人
 (参加無料)

申込：平成27年9月24日(木)
 午前10時から、北図書館で
 電話・FAXまたは直接来館
 で受付。

◆手話通訳があります◆



ふとん太鼓



今年度の堺歴史文化市民講座

第1回「日本武尊(ヤマトタケル)と大鳥大社」(ふるさと堺塾主宰・北村修治さんを講師にお迎えし、鳳保健文化センターで9月5日に開催しました。)

第3回「上神谷米と堺の日本酒」平成27年11月3日(火・祝)

場所：南図書館ホール 講師：中井正弘氏(太成学院大学客員教授)

第4回「チョコレートのひみつ(仮)」平成28年1月下旬予定

場所：美原区役所大会議室 講師：堂浦可奈子氏(フルタ製菓株式会社企画開発部)

目次

堺の魅力を発信します！ 「堺歴史文化市民講座」	… 1
中央図書館臨時休館・臨時 窓口カウンターの設置について	… 2
国立国会図書館デジタル化資料送信 サービスを各区域図書館で開始	… 2
シリーズ堺の〇〇 堺の町絵図	… 2
この本で解決！ ～田んぼで見つけた生き物～	… 3
堺かるた いろはの「え」	… 3
司書のイチ押し！ 『リフカの旅』	… 4
堺市立図書館電話番号一覧	… 4

ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。

年ごとに
 ゆづりゆづりて 譲り葉の
 ゆづりしあとに また新しく

この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。



中央図書館臨時休館・ 臨時窓口カウンターの設置について

中央図書館は、安全対策・老朽化対策として、耐震改修と空調設備改修などの工事を行なうため、臨時休館しています。臨時休館に伴い、平成 27 年 8 月 4 日（火）から 11 月 29 日（日）まで、臨時窓口カウンターと返却ポストを設置しています。



◆休館期間

平成 27 年 8 月 1 日（土）から
平成 27 年 12 月 4 日（金）まで。

[12 月 1 日～12 月 4 日は資料点検（整理）期間]

臨時窓口カウンター

場所は JR 阪和線百舌鳥駅前（堺市堺区百舌鳥夕雲町 2 丁 225-2）。主な業務は予約資料の貸出・返却で、閲覧スペース、駐車場はありません。

開設日時

【火～金】

10:00～20:00

【土・日・祝】

10:00～18:00



返却ポスト

場所は中央図書館の北側駐輪場で、24 時間利用できます。

※CD など壊れやすい資料は、必ず臨時窓口カウンターまたは市内の他の図書館の返却カウンターへお返しください。



休館中はご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。

国立国会図書館 デジタル化資料送信サービスを 各区域図書館で開始

各区域図書館では、8 月 4 日から、国立国会図書館がデジタル化した資料のうち絶版などで入手が困難な資料約 137 万点の閲覧、複写ができるサービスを開始しました。オンラインデータベース閲覧端末でご利用いただけます。

利用には図書館の「貸出カード」が必要です。詳しくは職員にお尋ねください。



シリーズ 堺の〇〇

堺の町絵図

古い堺の地図がみたいというお問合せをよくいただきます。

堺の町は、^{ほんな}元和元年（1615 年）大坂夏の陣で豊臣方によって焼き尽くされ、その後、徳川幕府のもとで風間六右衛門によって町づくりが行われました。この「元和の町割り」により、北・東・南の三方を環濠、西を海で囲まれた堺の町は、東西に横断する大小路と、それに直角に交差し、南北に縦断する^{たいどう}大道（紀州街道）、そして、この二つの道に平行する碁盤の目状の通りによって整然とした町なみとなりました。

今わかっている一番古い堺の町絵図は、^{ほんろく}『元禄二己巳歳堺大絵図』（1689 年）で、全部合わせると約三十畳分という大変大きなものです。堺市立図書館では前田書店出版部が 3 分の 1 サイズで復刻したものを所蔵しておりますが、気軽に見られる大きさではありません。そこで、よくご紹介するのが文久三年（1863 年）改正の『堺大絵図』です。元和の町割りから 250 年程たっていますが、町の基本構造は変わっておらず、近世の堺の姿をよく伝えるとされています。

文久三年の『堺大絵図』を細かくみていくと



文久改正堺大絵図

様々なことが分かります。「市ノ町」「宿屋町」「材木町」といった町名が大道に並んでいることから、商工業の盛んな様子がうかがえます。大和川の北の「住吉鳥居」から、

「大和橋」を渡り、大道を行くとその東に「宿院住吉御旅所」があることから、住吉と堺の強いつながりが想像できます。

この絵図は、きれいに色づけされており、町の構造がわかりやすく工夫されています。中心部には、緑に塗られた「御奉行所」と「与力屋敷」・「同心屋敷」など、町の東側環濠の内側には、薄い橙色や朱色に塗られた寺院を集めた寺町が配置されています。朱色に塗られた部分は、徳川将軍より朱印を受け特権を与えられた 18 の有力寺院です。

図書館 HP の地域資料デジタルアーカイブでは、この『堺大絵図』（「文久改正堺大絵図」）をご覧いただけるほか、多くの絵図を公開しており「堺市古図」（1704 年）、「堺市全図及商工業独案内」（1891 年）などがよく閲覧されています。

参考文献

- 『大阪古地図むかし案内ー読み解き大坂大絵図ー』
本渡章／著 創元社 2010 年
- 『むかしの堺ー歴史・文化、寺社、人物にみるー』
別所やそじ・尼見清市／共著
あかがね文庫 1994 年
- 『大阪春秋』122 号（平成 18 年春号）新風書房

この本で解決!

～田んぼで見つけた生き物～



今回は、近くの田んぼで捕まえた不思議な生き物を図書館に持参し、司書に実際に見せながら質問して下さった小学生たちの質問事例を紹介しします。

Q. 近くの田んぼで見つけたカブトエビともう一種類のエビに似た生き物について、生態と飼いが載っている本を借りたい(できれば児童書で)。

A. “カブトエビ”をキーワードに調べ、『カブトエビは不死身の生きもの!?』(谷本雄治/著 ポプラ社/2007)の写真から、その生き物がカブトエビであることを確認しました。カブトエビの生態と飼育については、児童書では、『カブトエビの飼育と観察』(谷本雄治/著 さ・え・ら書房/1998)に詳しい記載がありました。

もう一種類の生き物については、カブトエビと同じ場所で群れて泳いでいたということなので、“田んぼ”や“生き物”をキーワードに調べたところ、『田んぼの生き物わくわく探検!』(PHP 研究所/2015)の「田んぼにくらすエビ、カニの仲間」のページ(P24・25)に大きくカラーで載っていて、「ハウネンエビ」という名前であること



『田んぼの生き物 わくわく探検!』

『田んぼと水辺の生き物』



がわかりました。しかし、ハウネンエビの飼育方については記載がなく、次は“飼育”“飼育方”“水生生物”“エビ”をキーワードに、再度探しましたが、児童書では見つけることができませんでした。

“田んぼ”をキーワードに一般書で調べたところ『田んぼと水辺の生き物』(松沢陽士/写真・文学研/2014)に、ハウネンエビの飼育方とエサである植物プランクトンの確保の仕方、カブトエビの飼育方も詳しく載っていました。

また、どちらの生き物も水を張って間もない田んぼに発生し、寿命は非常に短く1か月程度で、卵を泥に産み残して姿を消すと書かれていました。質問者の子どもたちは「田んぼに戻してあげた方がいいかな」と言って帰って行きました。

抱いた興味は、大事な自由研究の端緒です。観察の仕方や研究の進め方などの資料も、興味を深めるのにきっと役立ちます!!

いつでも図書館に、質問に来てくださいね。

堺かるた - いろはの「え」

「枝ぞえの 絵師の苦心の 大安寺」

大安寺は堺区南旅籠(はたご)町東4丁にある由緒あるお寺ですが、とりわけ4室にわたって描かれたふすま絵は有名です。17世紀前半に狩野派によって描かれました。この絵には「絵師の苦心」という伝承が伝わっています。

大安寺に居候していた絵師が、別れの名残りにふすまに絵を描いて東国へ旅立ったが、一ヶ月もたないうちに突然戻ってきました。理由を問うと、描いた松が何か物足りないと思い気にかかっており、道中で良い枝ぶりの松を見て帰ってきたといい、ひと枝描き添えました。そののち、再び旅立っていったということです。

この話は戦前の国定教科書にも載っていました。大安寺本堂と内部の障壁画(ふすま絵)は堺市の重要文化財に指定されており、平成27年秋季堺



文化財特別公開での公開が予定されています。

(詳しくは、広報さかい10月号をご覧ください。)

参考文献

『大安寺本堂障壁画公開』(パンフレット 平成14年) 堺市教育委員会社会教育課
 『むかしの堺』[正編] 別所やそじ・尼見清市/共著 堺児童文化振興会 1976年
 『尋常小学国語読本』巻11 文部省 [編] [ノーベル書房] 昭和4年刊の復刻

司書のイチ押し!

『リフカの旅』(カレン・ヘス/作 伊藤比呂美・西更/訳 理論社 2015)



『リフカの旅』

ひとつの小説に感銘をうけると、その作家の他の作品も読みたくなります。私が『リフカの旅』を手にしたのも『ピリー・ジョーの大地』(カレン・ヘス/著 伊藤比呂美/訳 理論社/2001)が大変強く印象に残ったからでした。

『ピリー・ジョーの大地』は、1930年代のアメリカ大恐慌の時代を生きる14歳の少女ピリー・ジョーの過酷な生活と孤独を散文詩の日記形式で淡々と描き出す作品です。干ばつに脅かされる生活、絶たれた夢、父親との間に出来た心の溝。悲しみにじっと耐える少女の言葉に近づくよう、訳者の詩人伊藤比呂美さんは、当時10代のご自身の娘たちに下訳をさせ参考にしたそうです。

『リフカの旅』は、訳は同じく伊藤比呂美さんですが、今回は成長した娘さんのお名前が訳者にあがっています。時は1919年。当時のロシアでは“ポグロム(ロシア語でユダヤ人に対して行われる迫害の意味)”が激しくなり、ウクライナ(旧ロシア領)に住んでいた12歳のユダヤ人の少女リフカの一家は、アメリカを目指して出発します。

こちらは、作者の大叔母さんの実話がもとになっています。物語は、原題『Letters from Rifka』にあるように、ウクライナに残った従姉宛ての手紙形式で構成されています。訳者はタイトルに

“旅”という言葉を使い主人公の成長を表していますが、実際の旅は兵士に追われ、病に冒され、船旅の途中、嵐に襲われるなど想像を絶する厳しさです。

話の中で、こんな一節があります。

「この手紙、届くはずもないけど、書いてるだけでいいんだ。こわいのが減っていく。～(中略)～もう二度と話ができないかもしれないなんて、考えたくもない。だからわたしは、旅の記録をあなたにあてて書くことにする。そうやって、あなたとつながっていたい。」(同書29ページ)このような力強い主人公の言葉は、読者を主人公の近くに寄り添わせ、物語に引き込んでいきます。

戦争中のロシアにおけるユダヤ人や移住を強いられた人々を取り上げた作品は、邦訳された児童文学の中では少ないと思われます。『リフカの旅』は、1992年の発表後20年の時を経て2012年にフェニックス賞を受賞しました。このフェニックス賞は、過去(20年前)に出版されながら埋もれていた文学性の高い作品を、表彰することで再度世に送り出す珍しい賞です。

理不尽な憎しみ、差別、暴力、命の危険にさらされる一家をとり巻く深刻な現実と、それでも希望を持ち旅を続ける12歳のリフカの魂の言葉は、今なお、同じ年頃の子どもたちの心を震わせ強い印象を与える力を持つものだからでしょう。

多くの子どもたちに、ぜひ読んでいただきたい1冊です。(M)

堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415	東図書館	235-1345	北図書館	258-6850
中央図書館	244-3811	初芝分館	286-0071	美原図書館	369-1166
くすのき号	244-3811	西図書館	271-2032	人権ふれあいセンター—舩松人権歴史館	
堺市駅前分館	222-0140	南図書館	294-0123	人権資料・図書室	245-2534
中図書館	270-8140	梅分館	296-0025	青少年センター図書室	228-6331
東百舌鳥分館	234-9600	美木多分館	296-2111	ホームページ URL	http://www.lib-sakai.jp
				携帯ホームページ URL	http://www.lib-sakai.jp/m/

